

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編

22

小学校

2 2 小学校

その1 施設の概要

与謝野町の小学校は合併前に旧町のまま新町に引き継いでいますので、引き続き9校の運営を行います。加悦地域3校、岩滝地域1校、野田川地域5校です。

まとめの項目で詳しく記述しますが、現在、諮問機関である子ども子育て・会議にて小学校の再編についての議論が本格的に始まろうとしています。

【小学校再編の基本方針】

平成23年9月に教育委員会より提起された「学校等の適正規模適正配置に関する基本方針」について、子ども子育て会議に諮問し、答申をいただきました。

基本方針では「**平成34年度での一斉統合を基本とし、旧町ごとに一つの既存校舎を活用する。**」としており、「**岩滝地域は岩滝小学校、加悦地域は加悦小学校、野田川地域は市場小学校の現校舎を活用し統合する。**」、「**通学する小学校の変更は1回を超えない。**」としていました。

子ども子育て会議では基本方針に異論はないとしつつ、「**再編の時期は一斉再編でなく、可能なエリアから速やかに再編を進める。**」よう答申されたところです。

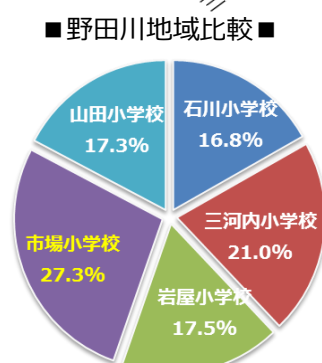
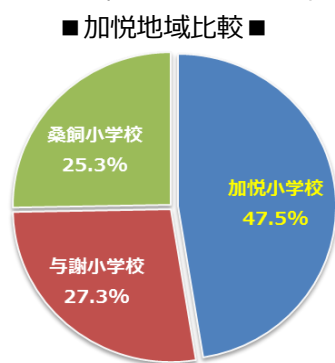
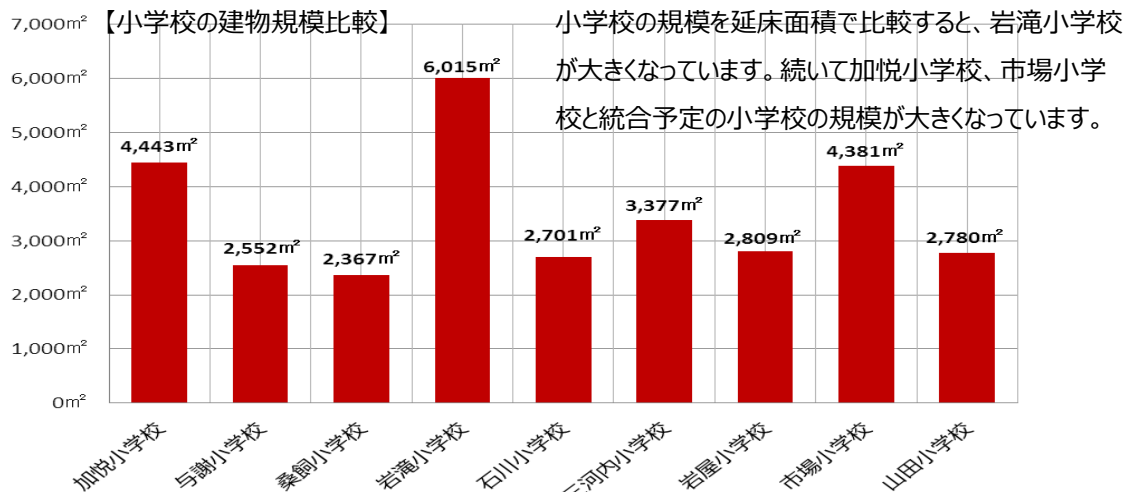
また、**岩屋小学校は平成28年度に市場小学校へ編入することになりました。**

① 建物規模と位置

【小学校施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦小学校	加悦1061番地	16,665.0㎡	4,443.0㎡	S60	直営
与謝小学校	滝468番地	12,386.0㎡	2,552.0㎡	S58	直営
桑飼小学校	明石2120番地	18,258.0㎡	2,367.0㎡	S56	直営
岩滝小学校	岩滝443番地	28,068.0㎡	6,015.0㎡	S53	直営
石川小学校	石川743番地2	17,090.0㎡	2,701.0㎡	S50	直営
三河内小学校	三河内1858番地	21,213.0㎡	3,377.0㎡	S49	直営
岩屋小学校	岩屋278番地1	21,820.0㎡	2,809.0㎡	S51	直営
市場小学校	幾地1013番地	23,414.0㎡	4,381.0㎡	S47	直営
山田小学校	下山田10番地	15,637.0㎡	2,780.0㎡	S53	直営
合計		174,551.0㎡	31,425.0㎡		

※建築年はメインの建物棟の建築年です。



小学校の規模である延床面積を旧町地域で比較すると、加悦地域は加悦小学校が、野田川地域は市場小学校が一番大きくなっています。(岩滝地域は岩滝小学校1校のため比較できません。)

【小学校位置図】



各小学校の位置については、それぞれの学区の中心地に配置されています。加悦小学校学区の加悦奥地区の一部で自転車通学が実施されている以外は徒歩で通学しています。

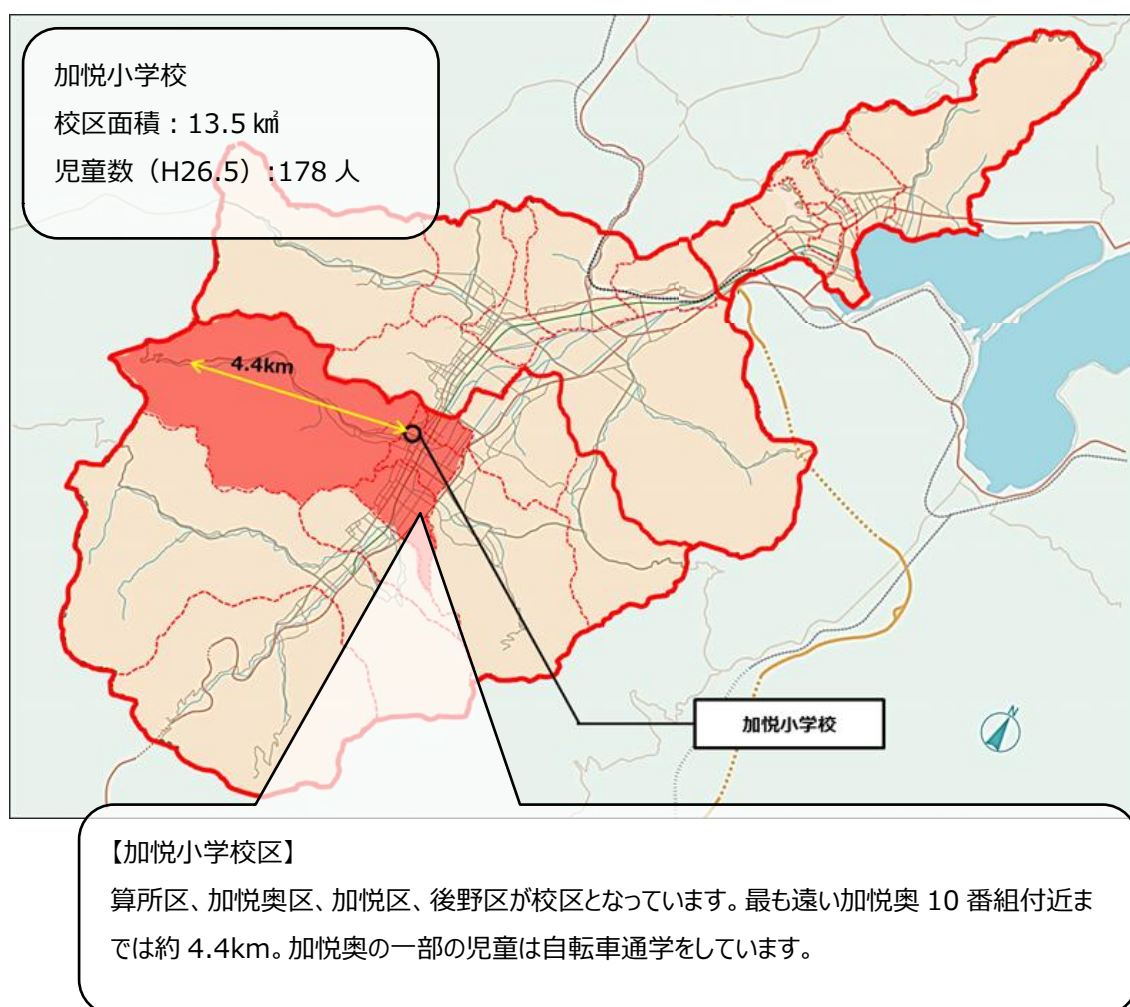
② 各小学校の概要

小学校ごとに成り立ちや校区面積・児童数などの概要を紹介します。校区面積には山林なども含まれています。図面上の黄色い矢印と距離は学校から最も遠くにある地域の直線距離を示しています。

■加悦小学校

加悦小学校は明治6年に「加悦校」という名称で浄福寺に設立され、町村合併等を経て141年の歴史があります。

当時は、加悦町、後野村、温江村、与謝村、滝村、金屋村、雲原村の子どもたちが通っていました。明治11年に現在の場所に新しく校舎が建てられましたが、京都府の中でも立派なものとして知られるほどだったという記録も残っています。



校舎棟

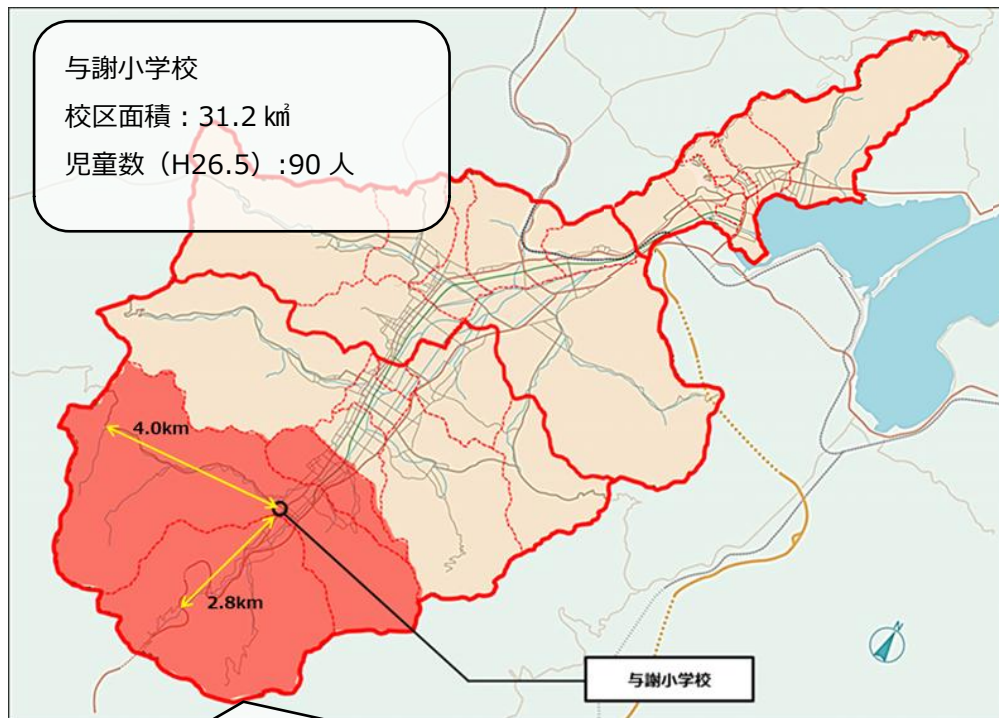


体育館

■与謝小学校

与謝小学校は明治 7 年に「加悦校」から分離して「共立小学校」という名称で滝村字石場に設立され、町村合併等を経て 140 年の歴史があります。

当時は、与謝村、滝村、金屋村の子どもたちが通っていました。大江山鉱山が採掘をはじめ、事業が拡大されて児童数が増大した昭和 21 年に現在の場所に新しく校舎が建てられました。



【与謝小学校区】

金屋区、与謝区、滝区が学校区になっており、奥滝の端までは約 4km、与謝の峠地域までは約 2.8km と広い区域になっていますが全地域徒歩通学です。



校舎棟



体育館

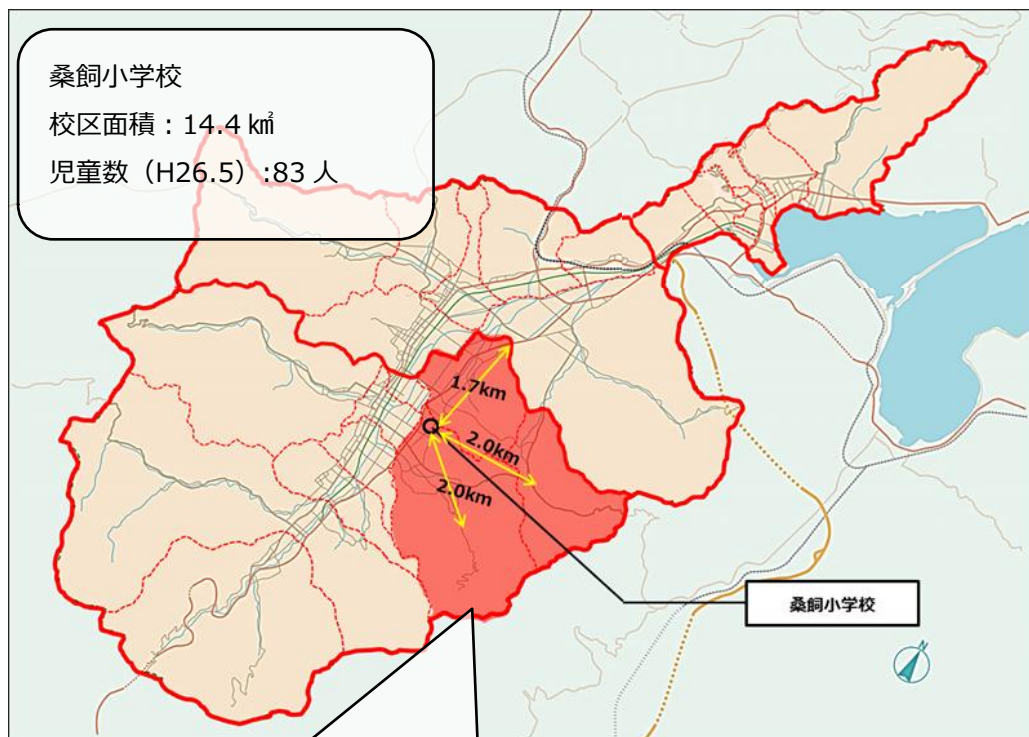
■桑飼小学校

明治 6 年に「明石校」という名称の仮校舎で設立され、のちに慈徳院に移転しました。町村合併等を経て 141 年の歴史があります。

当時は明石村の子どもたちが通っていましたが、明治 12 年に明石村、温江村、香河村が合併して桑飼村となつてからは、これらの地域の子どもが通うようになりました。

明治 26 年に現在の場所に移転し、現在の校舎は昭和 56 年に改築されたものです。

昭和 26 年には与謝郡内で最初の特設学級を開設しました。



【桑飼小学校区】

明石区、温江区、香河区が学校区になっており、最も遠い地域でも直線距離で 2km となっていますが、香河地区から登校する場合は香河峠を越えることになります。ただし、現在は香河地区には児童がいない状況です。



校舎棟



体育館

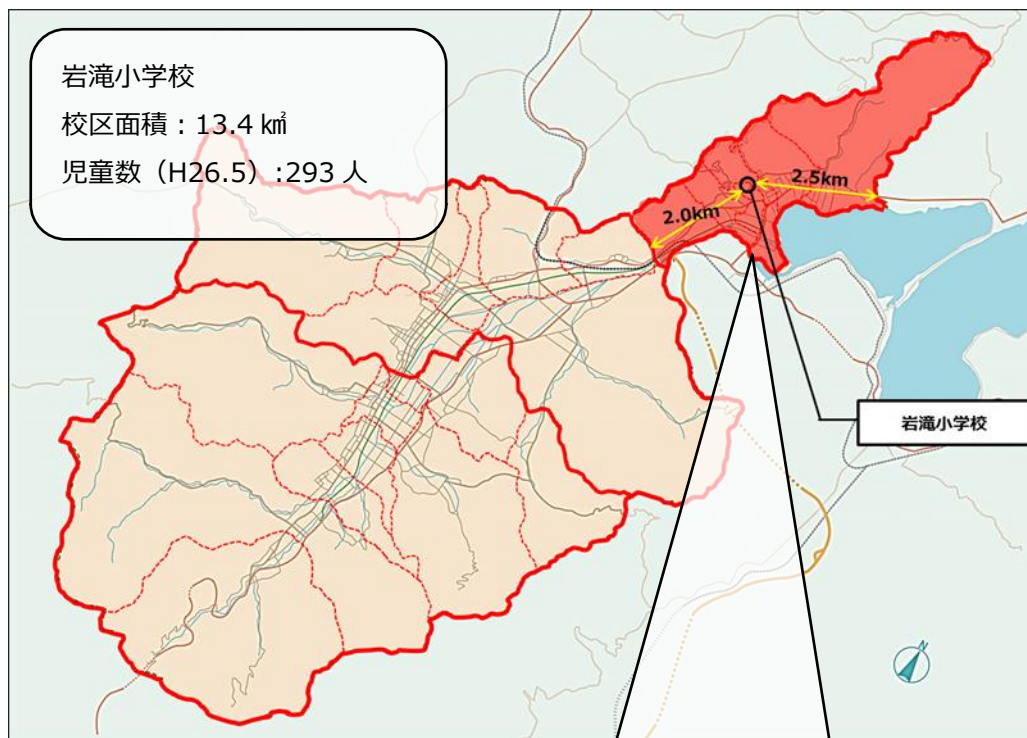
■岩滝小学校

明治 6 年に「岩滝校」という名称で須津・弓木・岩滝・男山 4 ヶ村組合立小学校として設立されました。町村合併等を経て 141 年の歴史があります。現在の校区は弓木・岩滝・男山の 3 地区です。

当時の校舎は岩滝村の民家を利用したものでしたが、数回の移転を経て現在の校舎は昭和 53 年に新しく校舎が建てられました。

もみじや桜が植えられた学校周辺や、山の斜面を利用して建てられたレンガ造りの外観は、現在でもその美しさは目を見張るものがあります。

町内小学校で唯一の全学年複数学級です。



【岩滝小学校区】

岩滝小学校は岩滝地域全域が校区になっています。通学距離も約 2.5km 以内となっており、全地域徒歩での通学となっています。



校舎棟

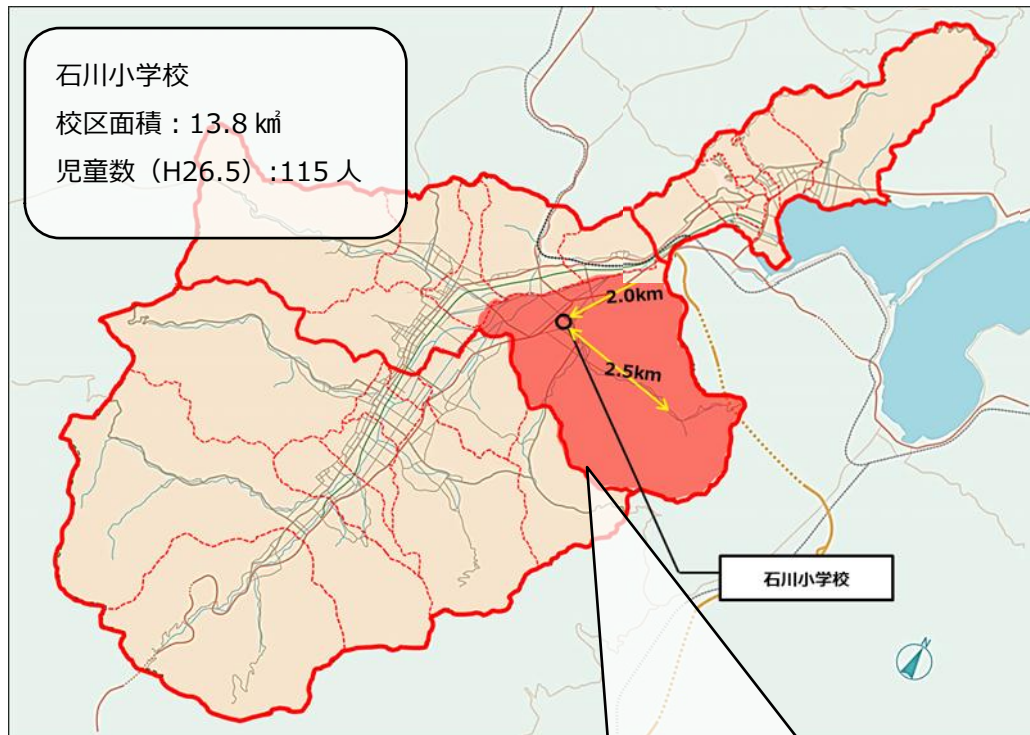


体育館

■石川小学校

石川小学校は明治 6 年に「石川学校」という名称で神宮寺を仮校舎として設立され、石川村と香河村の子どもたちが通っていました。その後、西禅寺に移転するなどし、明治 12 年に現在の場所に新しく校舎が建てられました。その後、丹後大震災や火災等で建て替えられ、現在の鉄筋 3 階建ての校舎は昭和 50 年に完成しました。

町村合併等を経て 141 年の歴史があります。



【石川小学校区】

石川小学校は石川区が校区になっています。通学距離は概ね 2.5 km 以内であり、他の野田川地域の小学校区の中でも広い校区になっています。



校舎棟

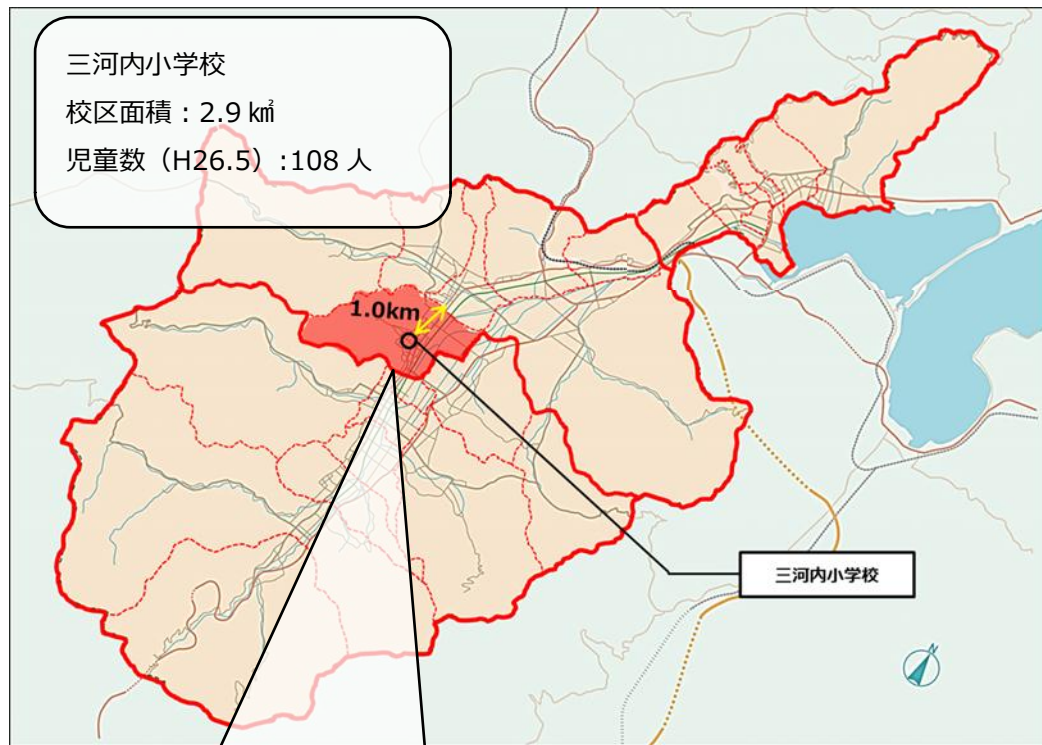


体育館

■三河内小学校

三河内小学校は明治 6 年に三河内地区の民家を借用して設立されました。明治 7 年にこれらの地区がそれぞれ分離して小学校を設立した後も継続して運営され、三河内村の子どもたちが通っていました。

大正 9 年、昭和 17 年、昭和 49 年に校舎の改築が行われ、町村合併等を経て 141 年の歴史があります。



【三河内小学校区】

三河内小学校は三河内区が校区になっています。通学距離も約 1.0km 以内となっており、全地域徒歩での通学となっています。



校舎棟



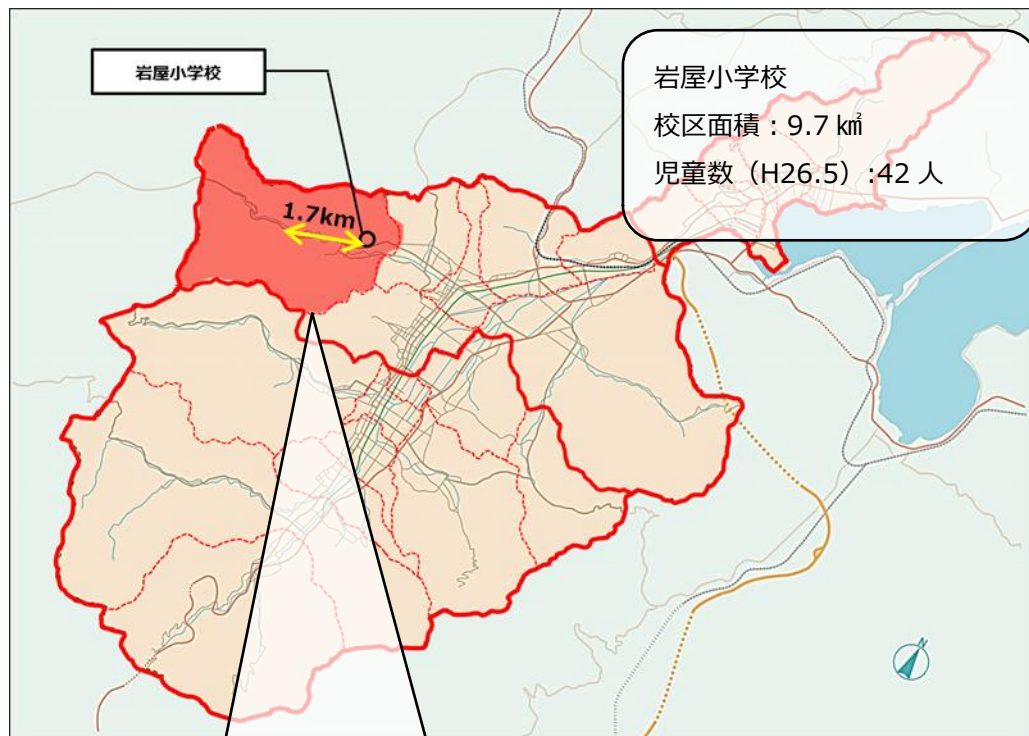
体育館

■岩屋小学校

岩屋小学校は明治 7 年に岩屋地区の民家を借用する形で設立され、岩屋村の子どもたちが通っていました。

現在の場所には明治 14 年に移転し、現在の校舎は昭和 51 年に落成したもので、町村合併等を経て 140 年の歴史があります。

年々児童数が減少し続け、平成 28 年 4 月には市場小学校に編入となることが決まっています。



【岩屋小学校区】

岩屋小学校は岩屋区が校区になっています。通学距離も最も遠い住宅のある地域約 1.7km ほどであり、全地域徒歩での通学となっています。



校舎棟



体育館

■市場小学校

市場小学校は明治7年に「四辻幾地岩屋聯合会三部落交代学校」として設立され、幾地村、四辻村および岩屋村の子どもの一部が通っていました。明治期には岩屋に分校が作られましたが大正4年に統合されました。その後町村合併等を経て140年の歴史があります。

公営住宅の建設、分譲住宅の増加により住民の数は増加していますが、ここ数年は少子化の影響もあり児童数が減少しています。



【市場小学校区】

市場小学校は幾地区と四辻区が校区になっています。通学距離も概ね2.0km 以内であり、全地域徒歩での通学となっています。



校舎棟

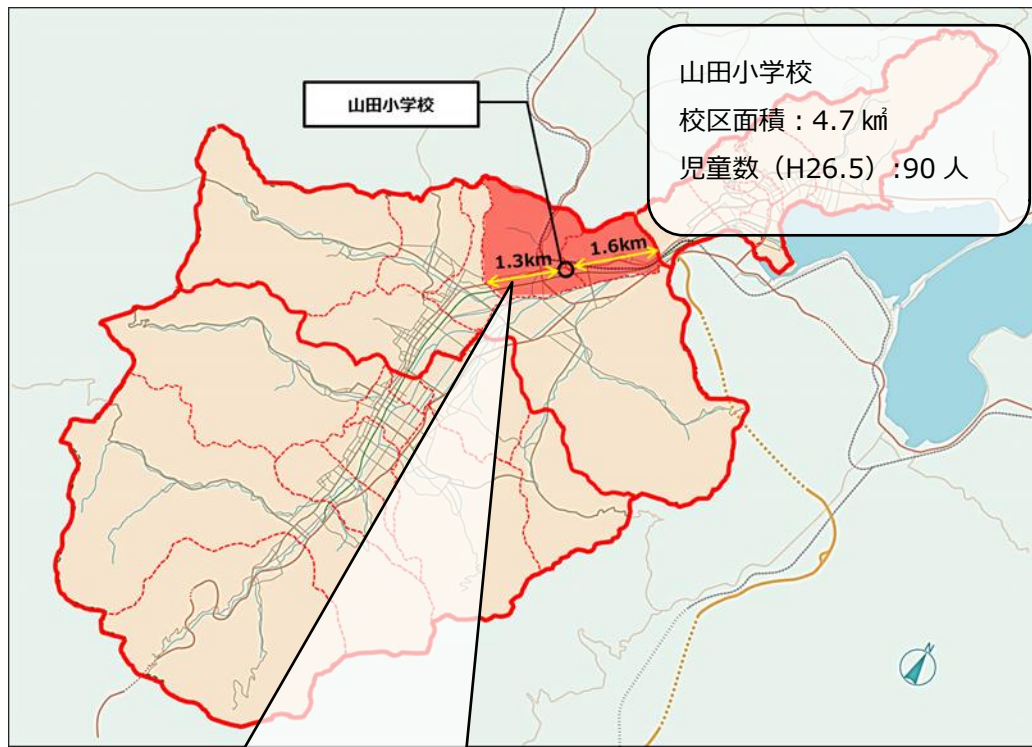


体育館

■山田小学校

山田小学校は明治 6 年に「下山田校」、明治 7 年に「上山田校」が設立され、山田村の子どもたちが通っていました。その後明治 9 年に両校を合わせて「山田小学校」が設立されました。

昭和 2 年の丹後大震災で校舎は全焼しましたが、昭和 3 年に新しく木造 2 階建ての校舎が建てられました。その後、昭和 53 年に現在地に移転し、鉄筋コンクリート造 3 階建ての校舎が新しく建てられました。町村合併等を経て 141 年の歴史があります。



【山田小学校区】

山田小学校は上山田区と下山田区が校区になっています。通学距離も概ね 2.0km 以内であり、全地域徒歩での通学となっています。



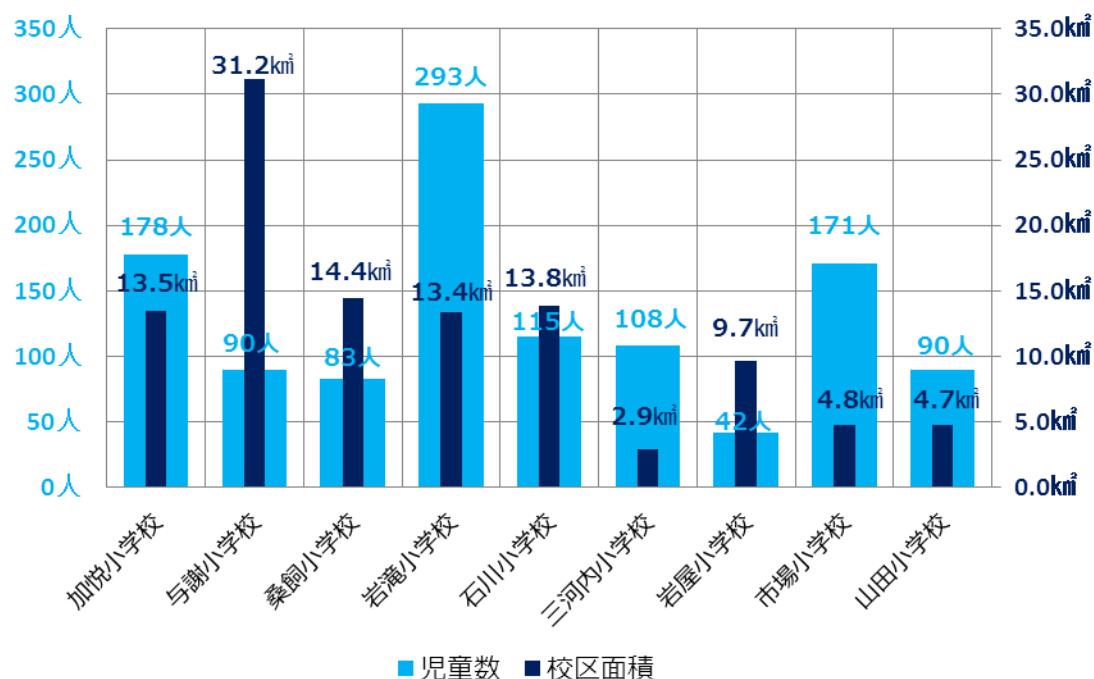
校舎棟



体育館

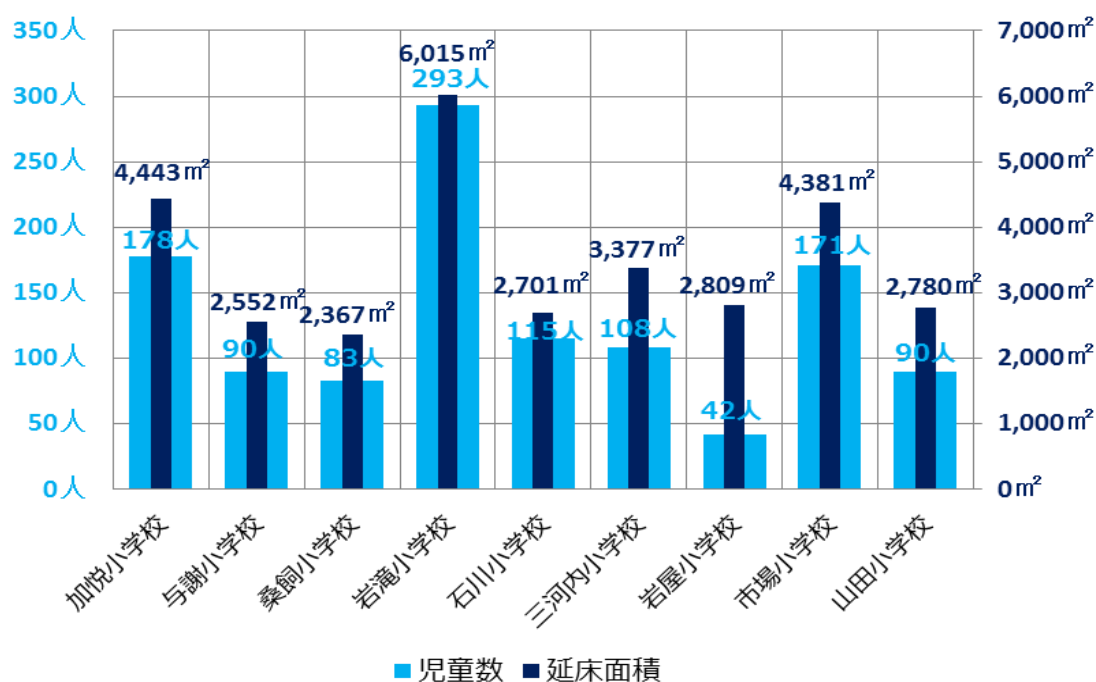
③ 校区面積比較

校区面積を比較すると野田川地域の小学校の校区面積が小さいことが分かります。最も校区面積の大きい与謝小学校区は山林が多いことありますが、学校から最も遠い家では直線距離でも4kmもあり、学校区ごとに差があることがわかります。三河内小学校、市場小学校、山田小学校は校区がそれほど広くないですが、生徒数が多い印象です。



④ 校舎の規模と児童数の比較

児童数と校舎の規模（延べ床面積）を比較した場合、概ね一致しますが、岩屋小学校については校舎の規模に対して児童数が少なくなっていることがわかります。



小学校の児童数に関しては全体的に減少しており、全学年２クラスで授業を行っているのは岩滝小学校だけとなっています。

校舎の規模と児童数を比較してみると以下のとおりになります。児童一人あたりの延床面積を見てみると以下ようになります。

施設名	児童一人あたりの㎡数					S50-H26の比較
	S50	S60	H7	H17	H26	
加悦小学校	9.2㎡	10.5㎡	14.4㎡	19.3㎡	25.0㎡	2.70倍
与謝小学校	11.8㎡	13.2㎡	19.8㎡	26.9㎡	28.4㎡	2.40倍
桑飼小学校	10.9㎡	13.4㎡	16.7㎡	20.2㎡	28.5㎡	2.61倍
岩滝小学校	8.4㎡	9.5㎡	14.1㎡	14.8㎡	20.7㎡	2.46倍
石川小学校	13.0㎡	12.6㎡	20.5㎡	18.8㎡	23.5㎡	1.80倍
三河内小学校	10.6㎡	13.2㎡	20.8㎡	18.8㎡	31.3㎡	2.96倍
岩屋小学校	15.2㎡	16.5㎡	26.5㎡	41.3㎡	66.9㎡	4.40倍
市場小学校	13.8㎡	17.9㎡	26.4㎡	18.0㎡	25.6㎡	1.86倍
山田小学校	13.1㎡	12.8㎡	17.5㎡	23.6㎡	30.9㎡	2.36倍
合計	106.1㎡	119.6㎡	176.6㎡	201.5㎡	280.7㎡	2.65倍

平成 26 年度の児童数で、児童一人当たりの延床面積を算出しました。概ね 30 ㎡前後となっていますが、岩屋小学校は 66.9 ㎡と著しく高い数値となっています。単年度で見てもわかりにくいと思いますので、昭和 50 年度からの推移もお示します。あくまで延床面積が変わっていないという前提ですが、年度を追うごとに児童一人当たりの延床面積は増加しています。仮に昭和 50 年度を適正規模とした場合、平成 26 年度との比較において、倍増以内となっているのは市場小学校と石川小学校のみで、岩屋小学校に至っては 4.4 倍となっています。

その2 施設の状況

小学校は昭和 40～50 年代に建設されたものが多く、建設から30年経過しているものがほとんどです。
全ての小学校において耐震補強工事が施されており、耐震性は有りとなっています。

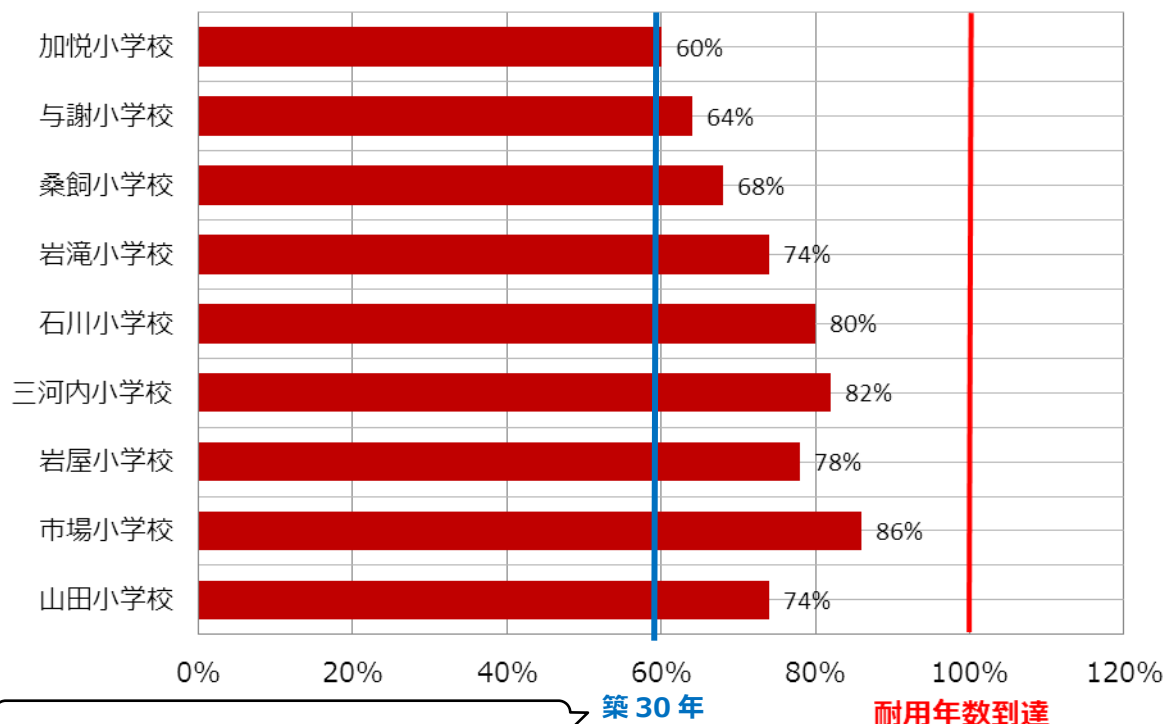
① 老朽化の状況

【小学校老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦小学校	鉄筋コンクリート造2階建	S 60	H 47	60%	有
与謝小学校	鉄筋コンクリート造2階建	S 58	H 45	64%	有
桑飼小学校	鉄筋コンクリート造2階建	S 56	H 43	68%	有
岩滝小学校	鉄筋コンクリート造2階建	S 53	H 40	74%	有
石川小学校	鉄筋コンクリート造3階建	S 50	H 37	80%	有
三河内小学校	鉄筋コンクリート造3階建	S 49	H 36	82%	有
岩屋小学校	鉄筋コンクリート造3階建	S 51	H 36	78%	有
市場小学校	鉄筋コンクリート造3階建	S 47	H 34	86%	有
山田小学校	鉄筋コンクリート造3階建	S 53	H 40	74%	有

※鉄筋コンクリート造の耐用年数は50年としています。

※延床面積等から各小学校のメインの建物の老朽化率を計算しています。



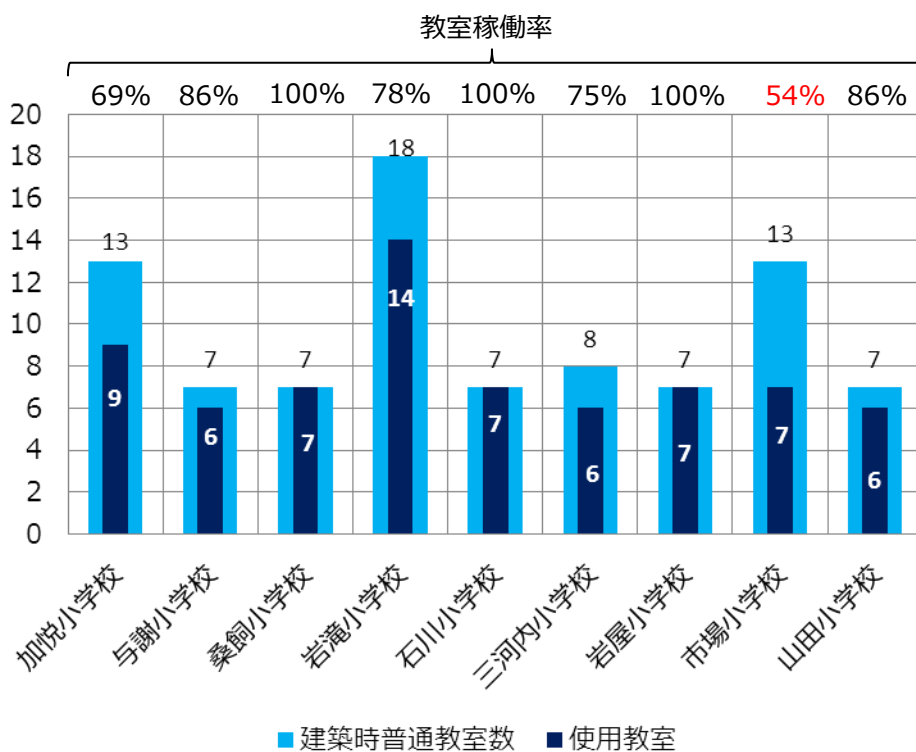
カテゴリ内の建物の構造が全て同じ場合、表記します。

市場小学校の老朽化率が高くなっています。次いで三河内小学校、石川小学校となっており野田川地域の小学校の老朽化が進んでいることが分かります。

② 教室数と利用状況

児童数の減少（後の利用状況の項目で説明）に伴い、空き教室の割合が増えています。1 学年 2 クラスを想定して建設された加悦小学校、市場小学校が 1 学年 1 クラスに移行したため教室稼働率が低くなっています。

施設名	建築時 普通教室数 (①)	クラス数			空き普通教室 (①－②)	教室稼働率
		普通学級	特別支援学級	計 (②)		
加悦小学校	13	7	2	9	4	69%
与謝小学校	7	6	0	6	1	86%
桑飼小学校	7	6	1	7	0	100%
岩滝小学校	18	12	2	14	4	78%
石川小学校	7	6	1	7	0	100%
三河内小学校	8	6	0	6	2	75%
岩屋小学校	7	6	1	7	0	100%
市場小学校	13	6	1	7	6	54%
山田小学校	7	6	0	6	1	86%
合計	87	61	8	69	18	79%



建築時の普通教室の数を見てみると、岩滝小学校は 1 学年 3 クラス規模、加悦小学校・市場小学校は 1 学年 2 クラス規模であり、その他の小学校は概ね 1 学年 1 クラス規模であることが分かります。

③ バリアフリー化状況

各小学校のバリアフリー化の状況は以下のとおりです。

【小学校バリアフリー化状況】

学校名	バリアフリー設備						
	多目的 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
						エレベーター	階段昇降機
加悦小学校	○	△	-	-	-	-	○
与謝小学校	○	△	-	-	-	-	-
桑飼小学校	○	△	-	-	-	-	-
岩滝小学校	-	△	-	-	△	-	-
石川小学校	-	-	-	-	-	-	-
三河内小学校	-	-	-	-	-	-	-
岩屋小学校	-	△	-	-	-	-	-
市場小学校	○	-	-	-	-	-	-
山田小学校	-	△	-	-	-	-	-

④ 防災状況

各小学校とも避難所に指定されています。土砂警戒区域についてはグラウンド部分が指定されている場合が多くなっています。

【小学校施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦小学校	○	○	—	—	警戒区域内
与謝小学校	○	○	—	警戒区域内	—
桑飼小学校	○	○	—	—	—
岩滝小学校	○	○	—	—	警戒区域内
石川小学校	○	○	0.5m～3.0m	—	—
三河内小学校	○	○	—	—	—
岩屋小学校	○	○	—	—	特別警戒区域内
市場小学校	○	○	—	—	警戒区域内
山田小学校	○	○	—	—	—

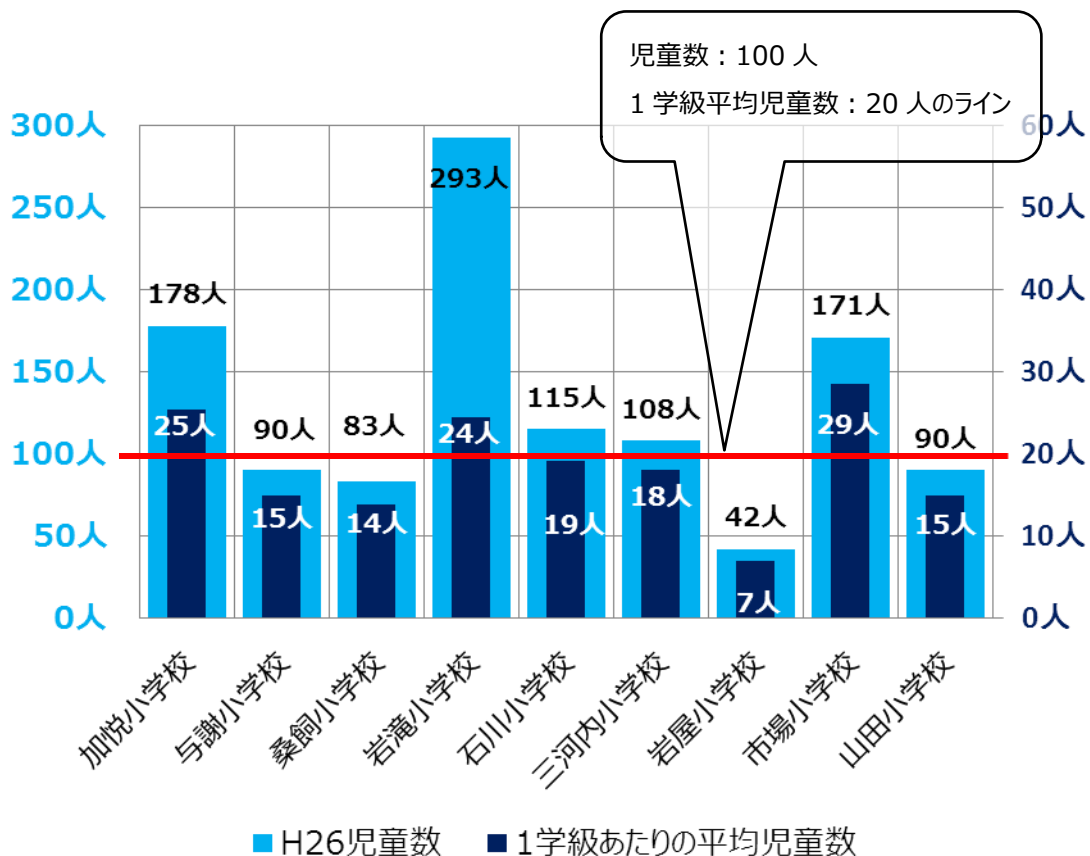
その3 施設の利用状況

① 児童数

与謝野町の小学校児童数は平成 26 年度で 1,170 人となっています。各小学校の児童数の内訳は以下のとおりとなっており、児童数が 100 人を下回る学校が目立ってきています。教室の利用状況でもお示しましたように、全学年 2 クラスとなっているのは岩滝小学校だけで、他の学校ではほぼ全学年 1 クラスとなっています。単純に児童数を普通学級数で割った 1 クラス平均児童数を見てみると、20 人を超えるのは加悦小学校、岩滝小学校、市場小学校の 3 校だけです。

【小学校児童数・1 学級あたりの平均児童数】

施設名	H26児童数	普通学級数	1学級あたりの平均児童数
加悦小学校	178人	7	25人
与謝小学校	90人	6	15人
桑飼小学校	83人	6	14人
岩滝小学校	293人	12	24人
石川小学校	115人	6	19人
三河内小学校	108人	6	18人
岩屋小学校	42人	6	7人
市場小学校	171人	6	29人
山田小学校	90人	6	15人
合計	1,170人	61	19人



② 児童数の推移

昭和30年度からの児童数の推移は下表のとおりとなっています。昭和30年度と平成26年度の児童数を比較した場合、全体で67%も減少しており、特に顕著な岩屋小学校においては83%の減少となっています。

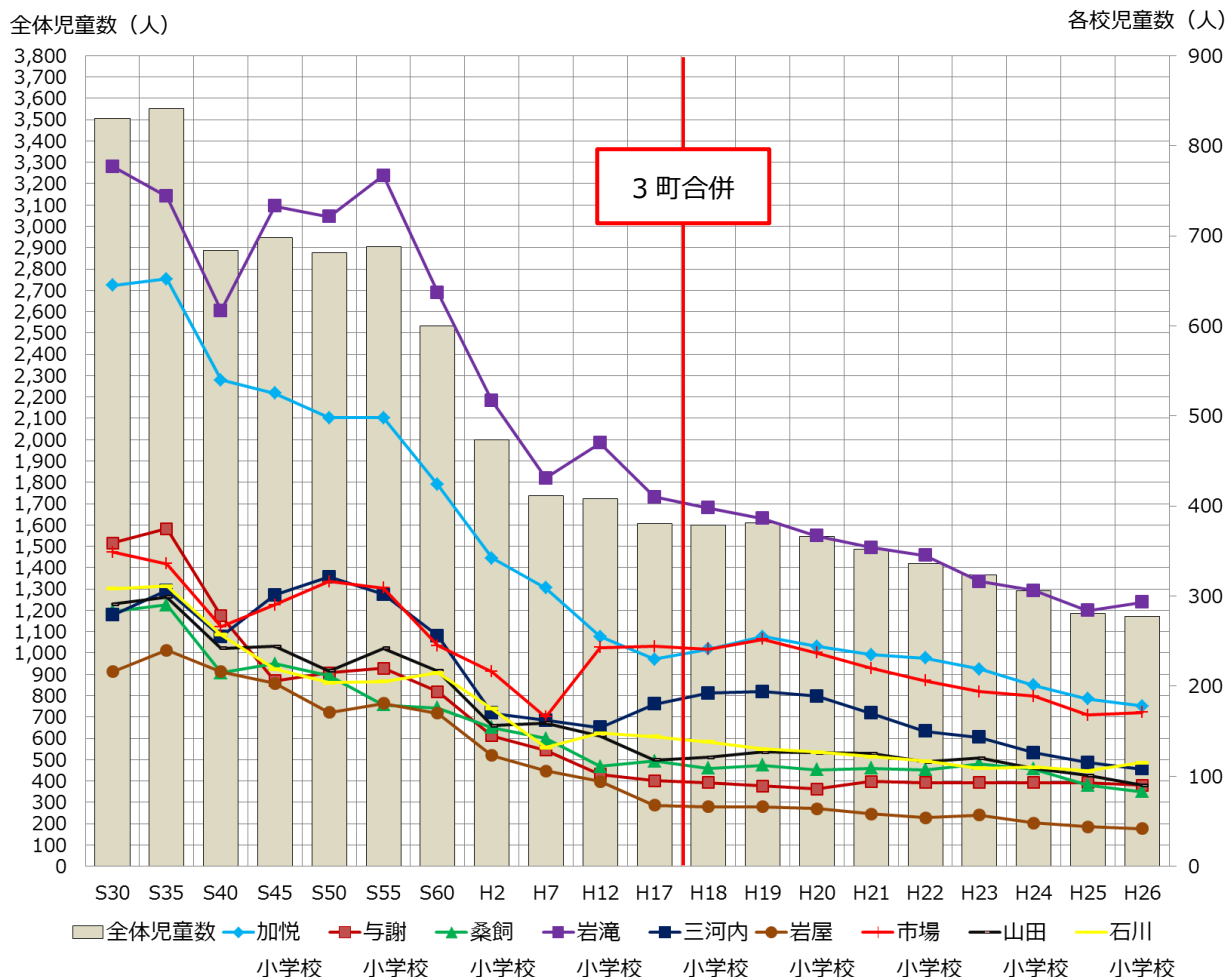
【小学校児童推移表】

※表中赤字は児童数が最も多かった年度

年度	小学校									全体 児童数
	加悦 小学校	与謝 小学校	桑飼 小学校	岩滝 小学校	石川 小学校	三河内 小学校	岩屋 小学校	市場 小学校	山田 小学校	
S30	645人	359人	283人	777人	308人	279人	216人	349人	291人	3,507人
S35	652人	375人	290人	744人	311人	306人	240人	336人	299人	3,553人
S40	540人	278人	215人	617人	257人	255人	216人	266人	242人	2,886人
S45	525人	206人	225人	733人	219人	301人	203人	290人	244人	2,946人
S50	498人	215人	212人	721人	204人	321人	171人	316人	217人	2,875人
S55	498人	220人	179人	767人	205人	302人	181人	309人	242人	2,903人
S60	424人	194人	176人	637人	215人	256人	170人	245人	217人	2,534人
H2	342人	145人	154人	517人	175人	170人	123人	216人	156人	1,998人
H7	309人	129人	142人	431人	132人	162人	106人	166人	159人	1,736人
H12	255人	102人	111人	470人	148人	154人	94人	243人	145人	1,722人
H17	230人	95人	117人	410人	144人	180人	68人	244人	118人	1,606人
H18	241人	93人	109人	398人	138人	192人	66人	241人	121人	1,599人
H19	255人	89人	112人	386人	130人	194人	66人	252人	127人	1,611人
H20	244人	86人	107人	367人	127人	189人	64人	237人	126人	1,547人
H21	235人	94人	109人	354人	122人	170人	58人	220人	125人	1,487人
H22	231人	93人	107人	345人	117人	150人	54人	206人	116人	1,419人
H23	219人	93人	114人	316人	109人	143人	57人	194人	120人	1,365人
H24	201人	93人	108人	306人	110人	126人	48人	189人	109人	1,290人
H25	186人	93人	90人	284人	106人	115人	44人	168人	101人	1,187人
H26	178人	90人	83人	293人	115人	108人	42人	171人	90人	1,170人
-474人 -285人 -207人 -484人 -196人 -213人 -198人 -178人 -209人 -2,383人										
最も児童数が多い年度からの減少数										
-73% -76% -71% -62% -63% -66% -83% -51% -70% -67%										
最も児童数が多い年度からの減少率										

小学校の児童数推移をグラフに反映させてみると、昭和 55 年～昭和 60 年～平成 2 年の 10 年間の落ち込みが激しくその後も減少は続いていることがわかります。

【小学校児童数推移表】



③ 体育館・グラウンドナイターの利用

【平成 25 年度小学校体育設備利用状況】

施設名	体育館利用件数	グラウンド ナイター利用回数
加悦小学校	102件	87件
与謝小学校	103件	-
桑飼小学校	138件	53件
岩滝小学校	133件	-
石川小学校	215件	49件
三河内小学校	129件	71件
岩屋小学校	76件	49件
市場小学校	203件	76件
山田小学校	201件	31件
合計	1,300件	416件

各小学校の設備には地域住民が利用する社会体育施設としての側面もあります。体育館利用数は夜間のものです。他の社会体育施設ほどではありませんが、どの小学校でも地域の方が利用する頻度が多いと言えます。

※加悦中学校ナイターは加悦小中グラウンド分加悦中学校と同件数計上

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の小学校施設に係る年間コストは以下のとおりです。教職員給与は除いています。

【小学校施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

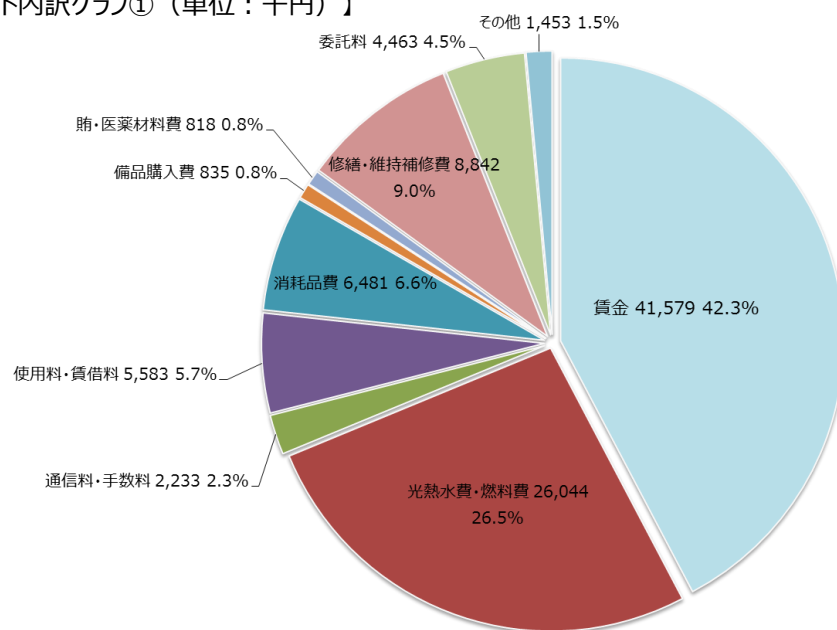
項目	加悦小学校	与謝小学校	桑飼小学校	岩滝小学校
賃金	4,133	2,980	4,728	8,487
光熱水費・燃料費	3,177	1,915	2,735	4,741
通信料・手数料	323	273	227	402
使用料・賃借料	1,514	1,185	1,263	367
消耗品費	596	438	826	982
備品購入費	125	20	97	198
賄・医薬材料費	54	111	121	216
修繕・維持補修費	730	782	1,091	1,537
委託料	408	404	316	604
指定管理料	0	0	0	0
その他	206	128	90	250
合計	11,266	8,236	11,494	17,784
項目	石川小学校	三河内小学校	岩屋小学校	市場小学校
賃金	4,255	2,220	3,866	5,985
光熱水費・燃料費	2,706	2,737	2,837	2,753
通信料・手数料	169	179	230	231
使用料・賃借料	220	296	223	294
消耗品費	632	744	640	881
備品購入費	0	193	60	96
賄・医薬材料費	30	29	44	154
修繕・維持補修費	1,174	989	804	808
委託料	248	1,254	482	379
指定管理料	0	0	0	0
その他	145	160	121	218
合計	9,579	8,801	9,307	11,799
項目	山田小学校	合計	各小学校の管理コストについては、臨時講師などの賃金や光熱水費が大半を占めており、各小学校で概ね 1,000 万円ほどのコストがかかっています。 割合をグラフにすると次ページのようになります。	
賃金	4,925	41,579		
光熱水費・燃料費	2,443	26,044		
通信料・手数料	199	2,233		
使用料・賃借料	221	5,583		
消耗品費	742	6,481		
備品購入費	46	835		
賄・医薬材料費	59	818		
修繕・維持補修費	927	8,842		
委託料	368	4,463		
指定管理料	0	0		
その他	135	1,453		
合計	10,065	98,331		

各小学校の管理コストについては、臨時講師などの賃金や光熱水費が大半を占めており、各小学校で概ね1,000万円ほどのコストがかかっています。

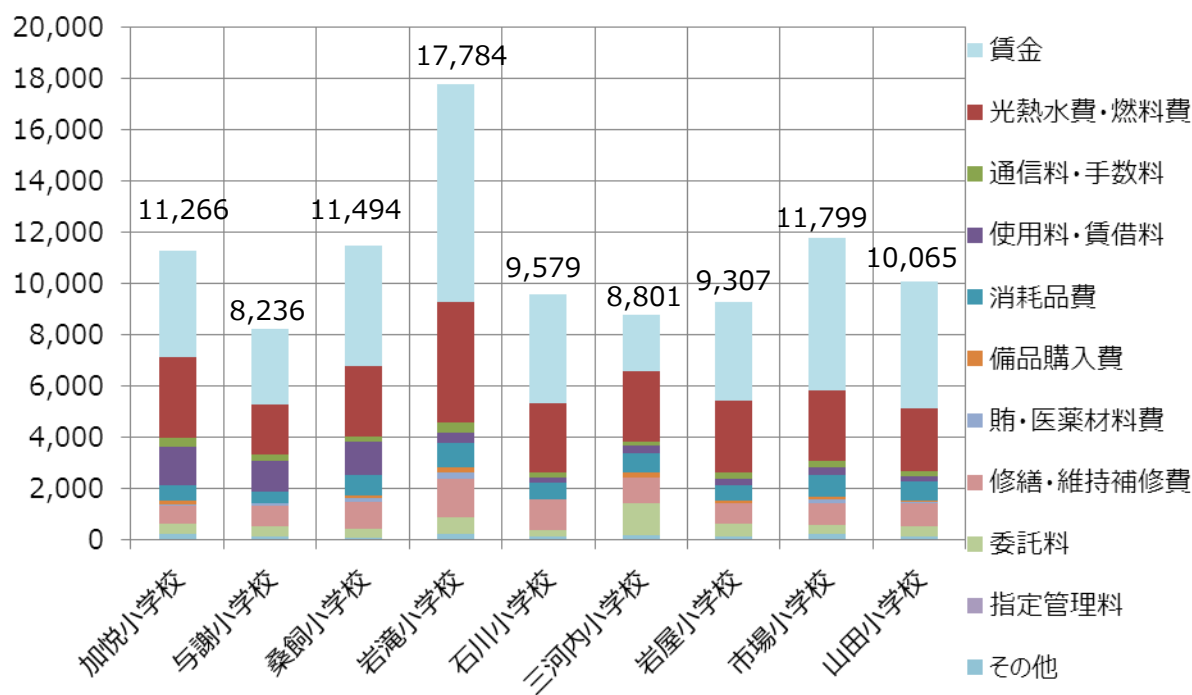
割合をグラフにすると次ページのようになります。

※金額は平成25年度の実績額です。

【小学校管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】

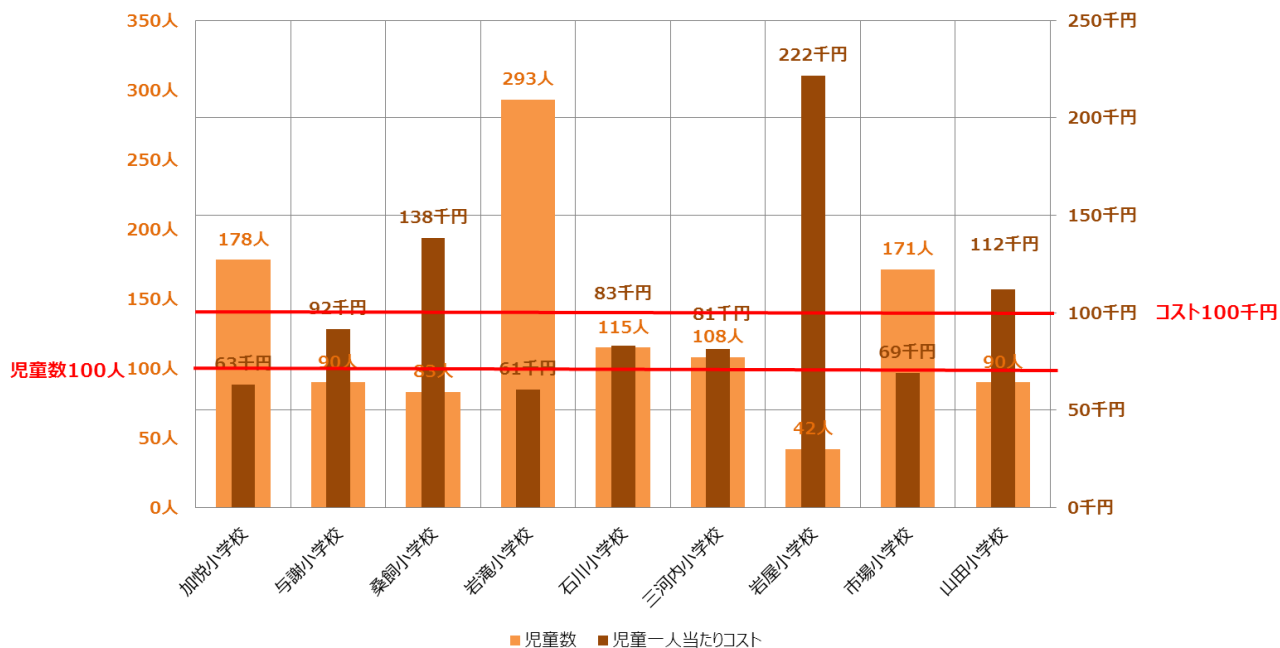


【小学校管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



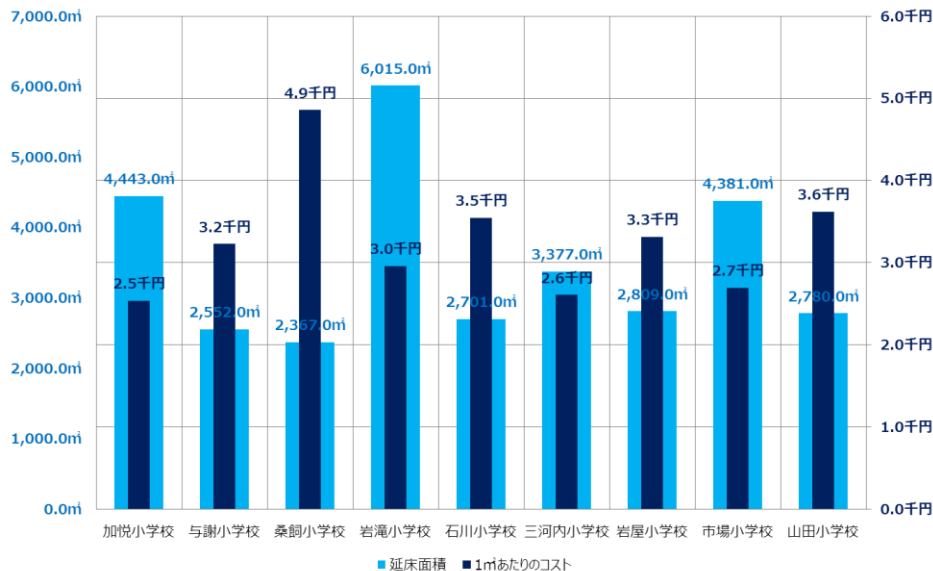
各学校のコスト状況を比較すると、岩滝小学校に係る経費が約 1,770 万円と多くなっています。当然児童数や教室数が多いことが考えられます。しかしながらその他の小学校については児童数にかかわらず概ね 1,000 万円前後となっており、学校の運営には一定の経費がかかることが分かります。

【児童一人あたりの管理・運営コスト内訳グラフ】



管理運営コストに大きなばらつきがないので、児童数の多寡が直接数値に表れます。児童数が100人を下回る小学校は児童一人当たりにかかるコストが10万円前後と高くなります。岩屋小学校については22万円ほどになっています。

【1㎡あたりの管理・運営コスト内訳グラフ】



延床面積での比較については、桑飼小学校の4.9千円を除いてはそれほど差がなく3千円前後となっています。コストと延床面積に大きなばらつきがないため、単純な建物規模による運営コストの差という程度にとどまります。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達年に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・33万円/㎡（解体費含む：学校教育系施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

学校統合の方針もありますが、単純にこのまま9校を同規模で維持していく場合にかかる整備コストです。

【小学校施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

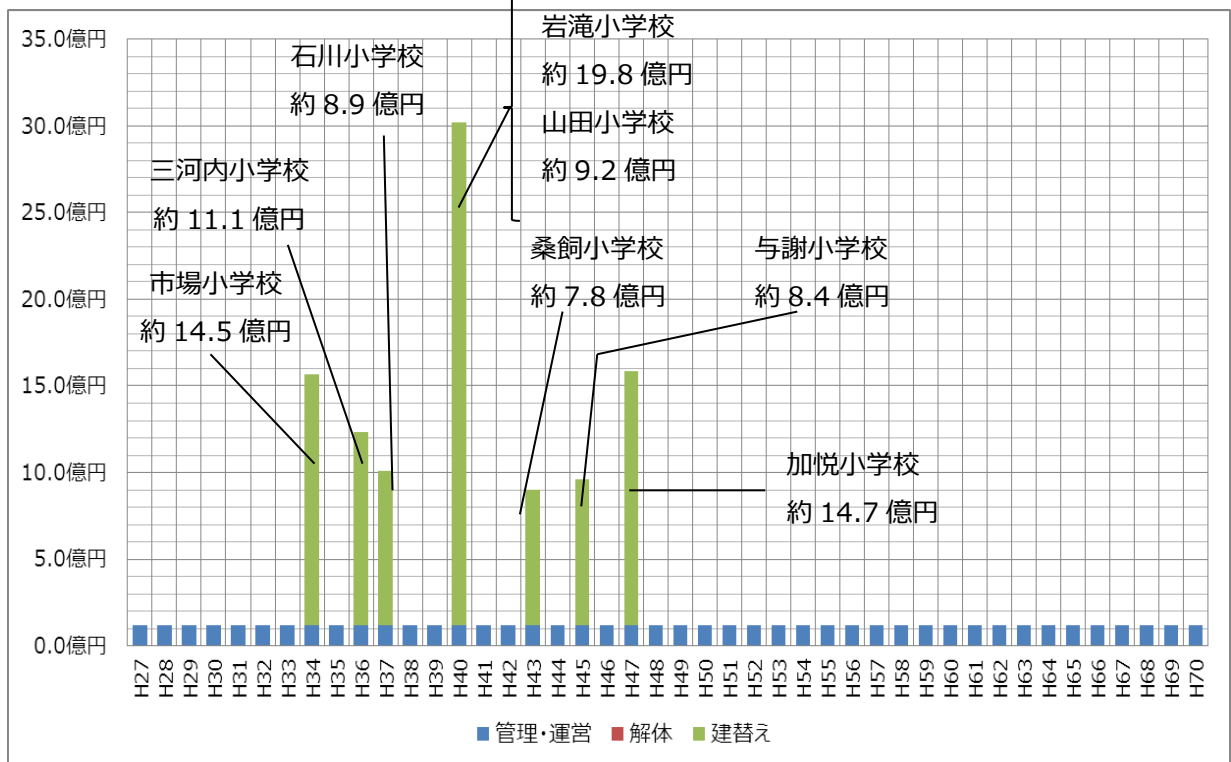
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
加悦小学校	S60	50年	455,835	H47	1,466,190	参考	133,290
与謝小学校	S58	50年	465,111	H45	842,160	参考	76,560
桑飼小学校	S56	50年	217,231	H43	781,110	参考	71,010
岩滝小学校	S53	50年	759,724	H40	1,984,950	参考	180,450
石川小学校	S50	50年	297,870	H37	891,330	参考	81,030
三河内小学校	S49	50年	266,785	H36	1,114,410	参考	101,310
岩屋小学校	S51	50年	328,046	—	—	参考	84,270
市場小学校	S47	50年	313,974	H34	1,445,730	参考	131,430
山田小学校	S53	50年	280,801	H40	917,400	参考	83,400
				合計	9,443,280	合計	942,750

※解体コストは参考に表示しています。

※岩屋小学校は平成28年度に市場小学校に編入されることから、建替えなどは不明としています。

管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

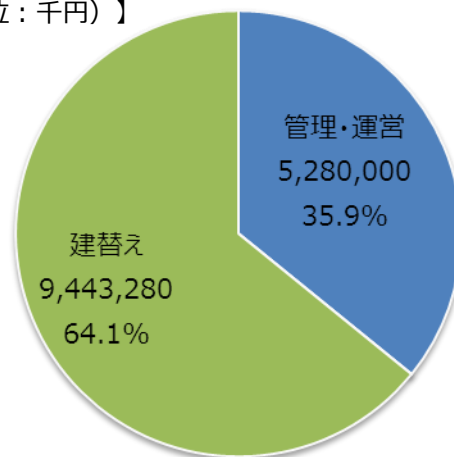
【小学校施設将来負担推移表】



コスト総額約 147.2 億円（整備 94.4 億円、解体 0 億円、管理運営 52.8 億円）

小学校が統合されずにこのまま運営された場合、平成 34 年度～平成 47 年度というわずかな期間に全ての小学校が耐用年数を迎えることになります。最も早く耐用年数を迎えるのは市場小学校で、平成 34 年度となっています。その後、平成 40 年度に岩滝小学校、山田小学校が同時に耐用年数を迎え、平成 40 年度だけで 29 億円の経費がかかる見込みです。その後平成 47 年度の加悦小学校まで整備が続くことになります。

【小学校将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

小学校の利用数である児童数は過去と比較して大きく減少しています。そのため各校とも普通教室として利用しなくなった教室が増えています。児童数の減少が、学校統合の必要性の大きな要因となっています。

●老朽化状況

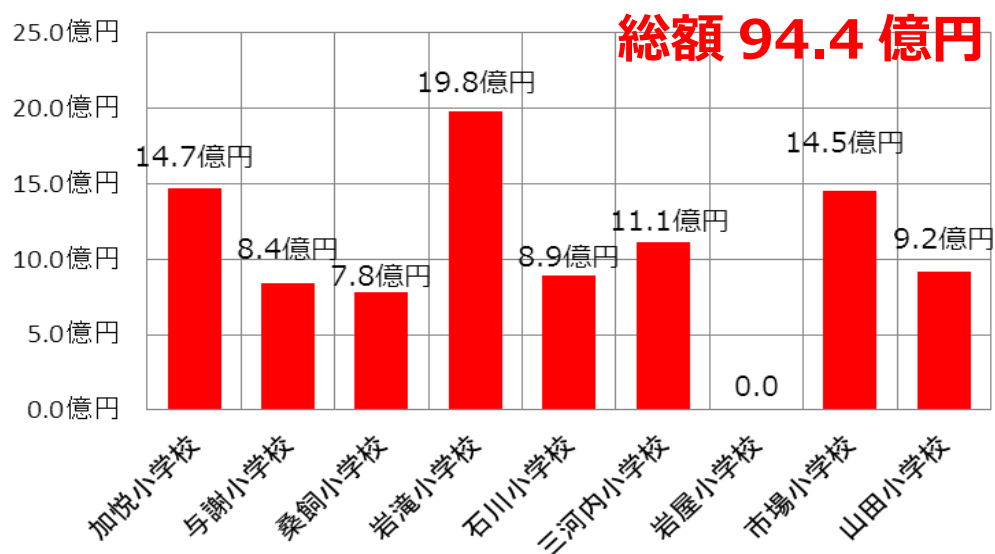
老朽化については、ほとんどの小学校が昭和 50 年代に整備をされていますので、築 30 年を超える建物ばかりです。合併前後に全ての小学校で耐震補強工事が施され、安全面では一定の水準を確保しているとはいえ、設備自体は大規模な改修を行っていないケースが多く、他の施設カテゴリーと比べ耐用年数の到来が早い傾向にあります。特に市場小学校は野田川地域の統合小学校となることも検討されていますので、平成 34 年度に耐用年数が到来する現状にあっては、早期に方針決定をする必要があります。

●コスト状況

管理・運営コストについては、児童数や延床面積（建物規模）によってあまり影響を受けないことから、再編が進めば現在の 1 / 3 程度に抑制できると見込まれます。

次に今後の整備にかかるコストですが、現在小学校統合の方針もありますので、あくまで参考コストとなります。すでに市場小学校との統合の方針が具体化しています岩屋小学校を除く 8 校の今後の建替えコストについては、現在の延床面積に全施設同じ単価を乗じて算出していますので、延床面積が大きい小学校ほど大きくなります。

【各小学校建替コストグラフ】



ただし、学校統合の方針を進めて行けば、整備費は削減されます。いつの時点で整備に踏み切るのかが課題になると考えられます。

●現状のまとめ

小学校の適正規模・適正配置は 3 校に再編という方針が確認されており、具体的な時期や手法については今から検討される段階です。ここまで見てきましたように、今のまま 9 校を維持することは大変難しく、財政的な負担が大変重くなりますので、再編に取り組むことは必然的なことだと考えます。

一方で、白書で見てきた物理的・財政的な状況ではなく、各校の歴史や伝統、そして地域にお住まいのみなさんの小学校への愛着という部分にも配慮しなければなりません。今まで地域の中心として大きな存在であった小学校がなくなり、残された校舎をどのように活用していくのかが大きな課題です。。

2 今後の展望

●小学校の再編について

小学校の再編については先述しましたように、以下のような方針があります。

小学校再編方針

- ◎「平成 34 年度を目途に、可能な限り順次統合を進めていく。」
- ◎「岩滝地域は岩滝小学校、加悦地域は加悦小学校、野田川地域は市場小学校の現校舎を活用し統合する。」
- ◎「岩屋小学校は平成 28 年度に市場小学校に編入する」

この方針を基に、施設の物理的な面に注目し小学校再編を見てみましょう。

注目するのは統合先となる加悦小学校、岩滝小学校、市場小学校の3校ですが、岩滝小学校は岩滝地域に1校であり、再編ではなく継続となりますので、視点によっては加悦小学校、市場小学校のみに注目することとします。

●収容可能時期

まず、どの時点で再編が可能かというところから見て行きましょう。空き教室数を考察した際の普通教室数から

岩滝小学校は全学年3クラスが可能
 加悦小学校は全学年2クラスが可能
 市場小学校は全学年2クラスが可能

と、説明しました。他の小学校は全学年1クラス想定で整備されていることから、この3校が統合小学校として想定されることがよくわかると思います。

では統合の目途とされる平成34年度までの各小学校の児童推移を見てみましょう。以下の推移表のとおり見込んでいます。

【小学校児童数推移表（H26～H34）】

●加悦

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
加悦小学校	178人	176人	178人	159人	153人	143人	144人	134人	120人
与謝小学校	90人	82人	79人	76人	75人	66人	63人	56人	54人
桑飼小学校	83人	73人	70人	61人	66人	66人	70人	73人	73人
加悦合計	351人	331人	327人	296人	294人	275人	277人	263人	247人

●岩滝

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
岩滝小学校	293人	292人	287人	285人	267人	247人	232人	214人	196人
岩滝合計	293人	292人	287人	285人	267人	247人	232人	214人	196人

●野田川

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
三河内小学校	108人	101人	102人	97人	94人	95人	102人	102人	97人
岩屋小学校	42人	41人	-	-	-	-	-	-	-
市場小学校	171人	159人	185人	168人	156人	151人	143人	138人	140人
山田小学校	90人	95人	99人	99人	104人	104人	107人	99人	100人
石川小学校	115人	111人	115人	107人	105人	100人	93人	98人	93人
野田川合計	526人	507人	501人	471人	459人	450人	445人	437人	430人

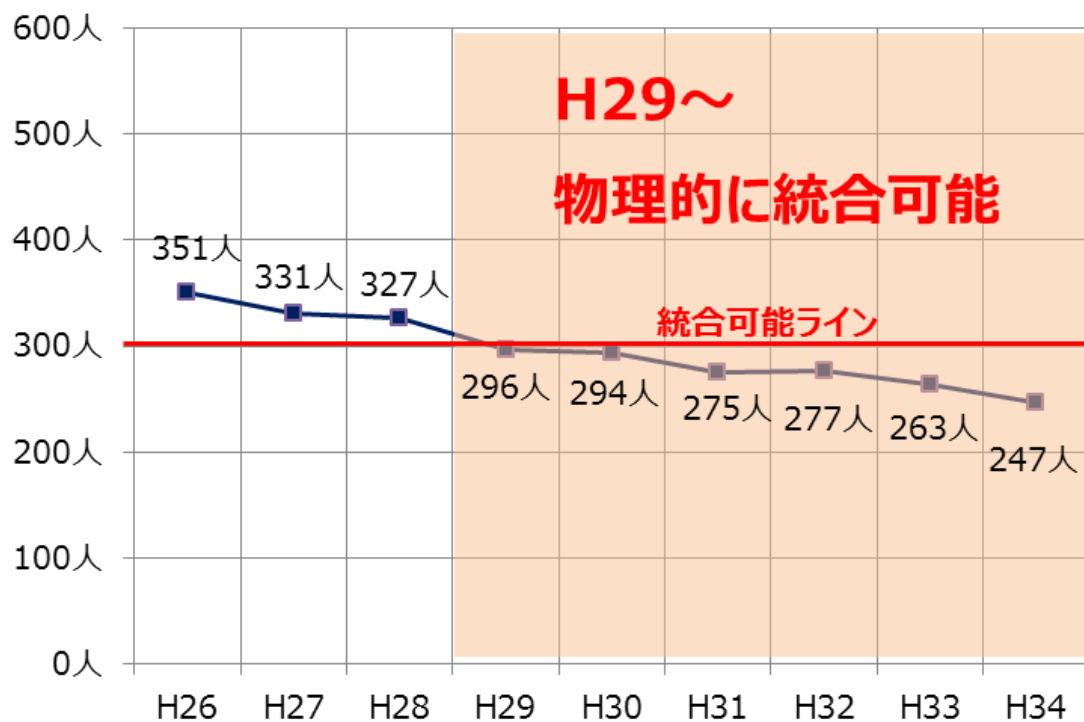
※岩屋小学校の児童数は平成28年度から市場小学校に含めています。

続いて収容可能児童数について見てみます。再編方針では概ね1クラス20～30人となっていますので、1クラス25人と想定し、全学年2クラスとして算出しました。

1 学級 25 人、1 学年 2 クラスとした場合の可能人数 $25 \text{ 人} \times 12 \text{ クラス} = 300 \text{ 人}$

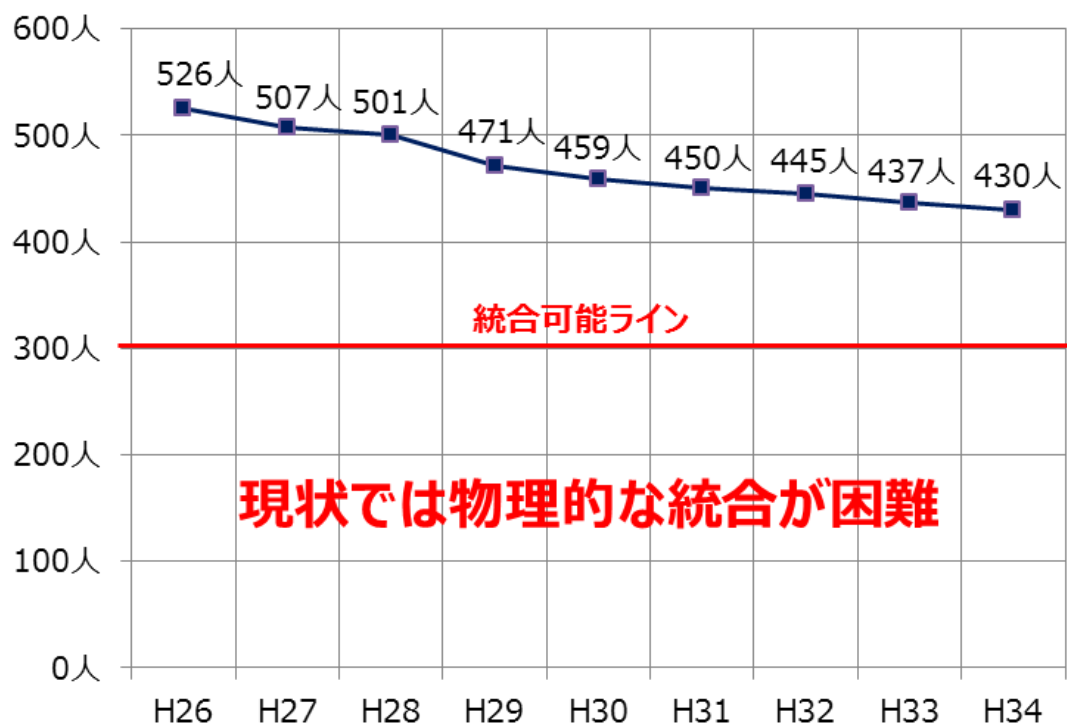
最後に児童数推移表をグラフ化し、可能人数 300 人をグラフ上に反映させてみました。加悦、野田川地域の推移です。

【加悦地域の児童推移表グラフ】



加悦地域は平成 29 年度に児童数が 296 人になることから 300 人を下回り、物理的には収容可能となります

【野田川地域の児童推移表グラフ】

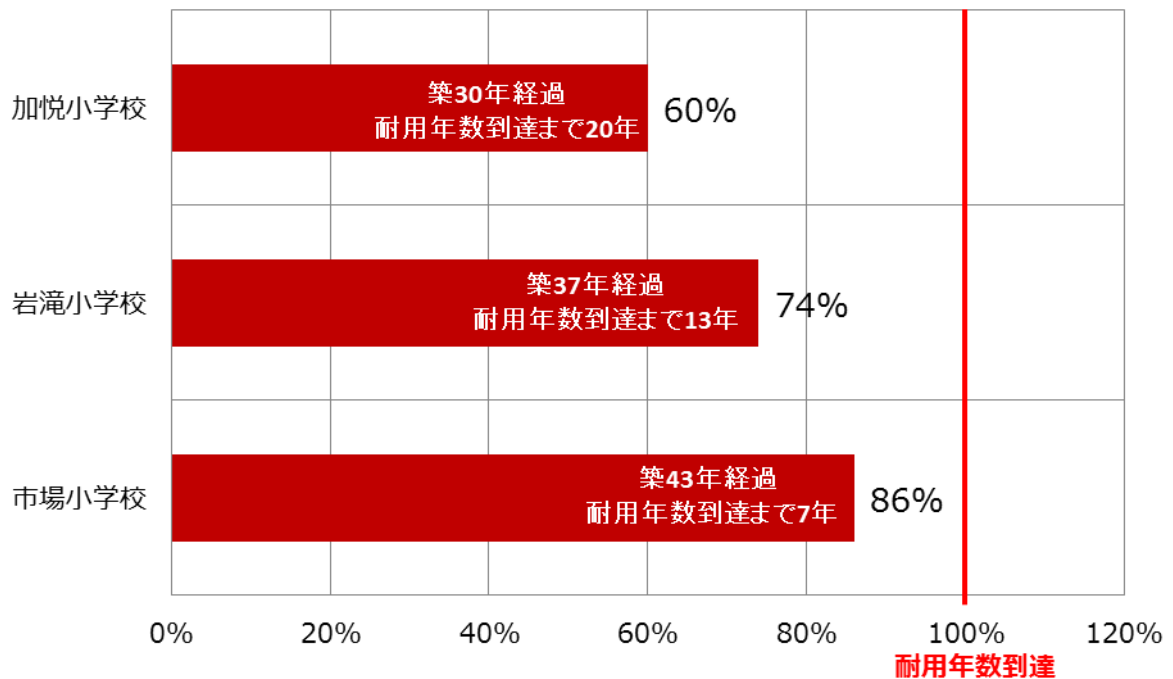


一方で、野田川地域の児童数は減少傾向にあるものの、平成 34 年度でも 430 人と高い水準にあり、1 学年 2 クラス想定の場合には収容が難しい状況にあります。統合先の小学校の規模を大きくするか、2 校への統合とするなどの対応が必要かもしれません。

●老朽化状況と整備に係るコスト状況

岩滝小学校も含めて校舎の老朽化状況を見てみましょう。あくまで耐用年数で見た場合の老朽化度合いであり、詳細を知るには点検調査が必要となることをご理解ください。

【老朽化率グラフ】



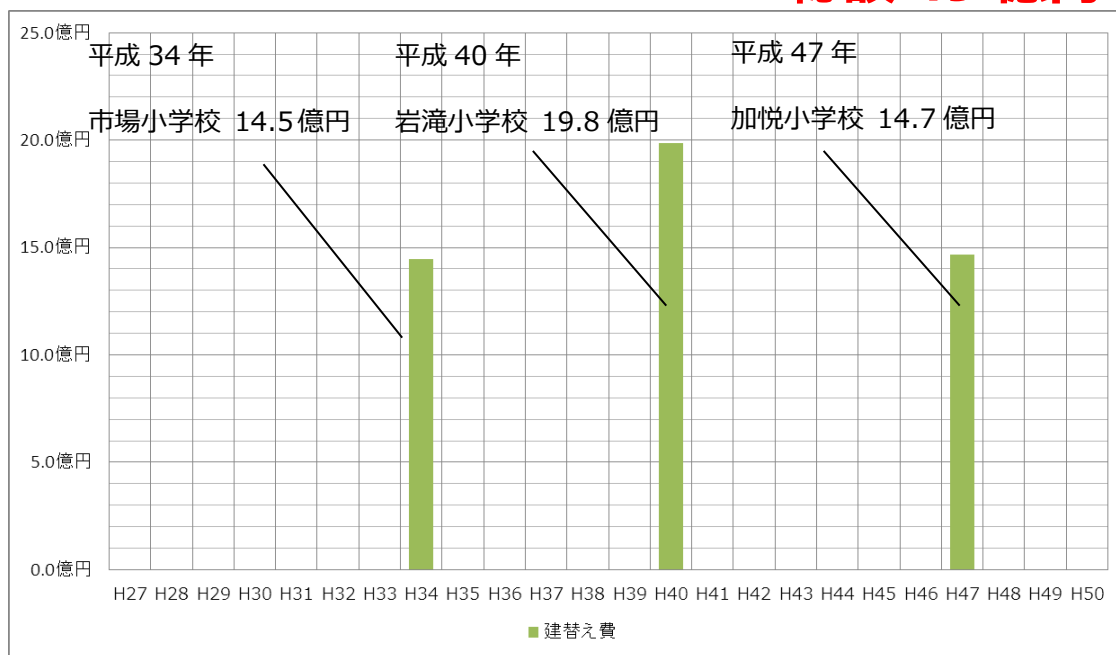
どの小学校も築 30 年が経過していることはもちろんですが、鉄筋コンクリート造の耐用年数 50 年に迫る学校もあります。市場小学校は昭和 47 年の建設から 43 年が経過し、老朽化が目立ってきています。岩滝小学校は昭和 53 年の建設から 37 年経過していますが、全体的にしっかりとした造りになっており、老朽化状況がそれほど目立っていない印象です。加悦小学校は昭和 60 年に建設されており比較的新しい建物ですが、教室棟以外の校舎は昭和 50 年代の建物であるため、整備を加える必要があるかもしれません。

これはあくまで白書作成チームが施設の見学をした時の印象であり、実際の老朽化を測るには明確な基準による調査が必要となります。

次に整備に係るコスト状況を見てみましょう。耐用年数到達時に各小学校の建替えを行った場合、コストは以下のとおりとなります。

【統合小学校の建替えコスト推移グラフ】

総額 49 億円



3つの学校を建替える場合、総額で49億円かかります。まず平成34年度には市場小学校を耐用年数到達により建替えると想定した場合、14.5億円の支出が生まれることになります。

●校区の面積

統合後の校区面積については、岩滝小学校は変更がありませんが、加悦小学校、市場小学校は広くなります。

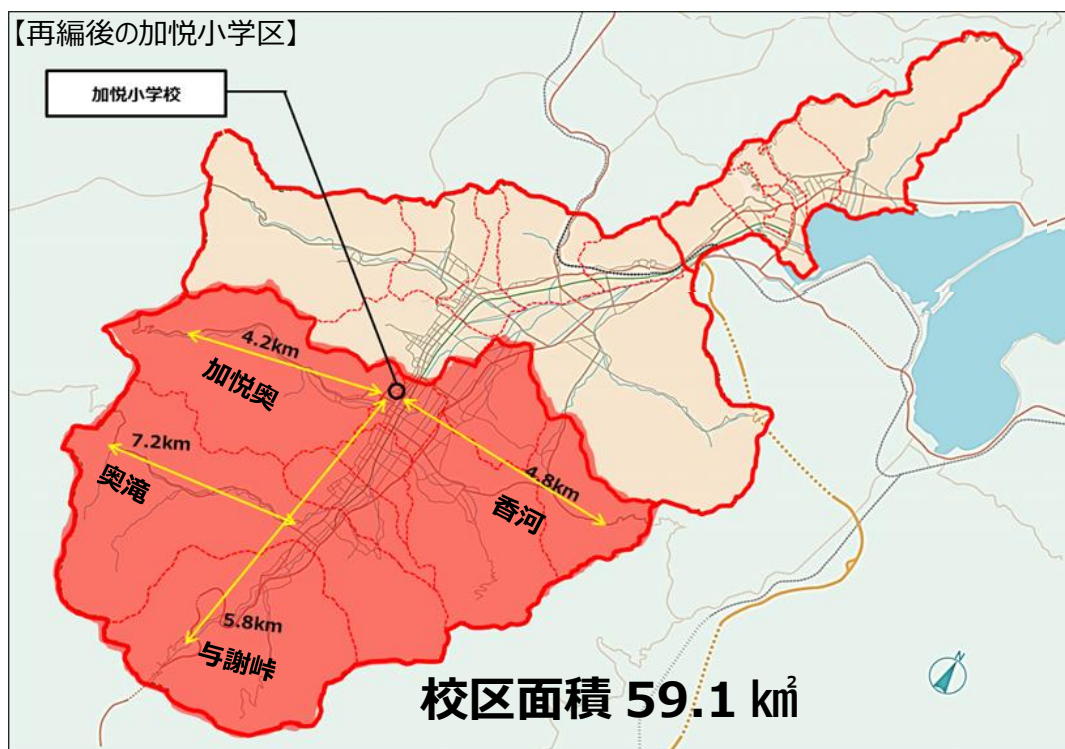
□加悦小学校（現行）13.5k m² ⇒ （再編後）59.1 km²（約4.4倍）

□市場小学校（現行）4.8k m² ⇒ （再編後）35.9 km²（約7.5倍）

それぞれの旧町域が校区になりますので、中学校と同じ校区になります。

登校するための距離を見てみましょう。以下の図は主要な道路に沿った直線距離を示しています。

加悦小学校区の場合、桑飼小学校区の香河区まで、与謝小学校区の奥滝、与謝峠地区までが校区となり、最も遠いと考えられる奥滝までは 7.2 k m ほどの通学距離になります。



一方、市場小学校の場合は石川小学校区の川上地区等が校区となりますので、最も遠いと考えられる地域で 4.8 k m ほどの通学距離になります。



文部科学省が示す、現行の学校適正化基準では小学校の通学距離は概ね 4 km以内とされているので、再編後の加悦小学校区は広大な印象です。ただ、学校統廃合を見据えて学校適正化基準に通学 1 時間以内という基準も加えられることから、判断はやや流動的となります。

現行では加悦小学校の一部（加悦奥区の一部）で自転車通学を実施していることから、自転車通学やスクールバスの導入などを検討する必要があります。

加悦小学校、市場小学校を中心に再編に向けた現状を施設の規模や配置に視点を置いて見てきました。

加悦小学校については

- 規模は「適正」
- 老朽化は「教室棟を除く校舎の老朽化の調査が必要」
- 通学距離は「多くの地域で何かしらの対策が必要」と考えられます。

市場小学校については

- 規模は「満たない」
- 老朽化は「全体的に調査などの早期の対策が必要」
- 通学距離は「一部の地域は何かしらの対策が必要」

どちらも再編に向けてはいくつかの課題があります。特に市場小学校への再編について、物理的な課題をクリアするには困難な状況にあると考えられます。